

京都教育大学 FD ニュース

No. 81

2017年3月22日

京都教育大学 FD 委員会

本学における FD 活動へのご理解とご協力に感謝申し上げます。

今回の FD ニュースでは、第 2 回 FD 研修会、平成 28 年度大学院教育学研究科アンケート調査結果、および平成 28 年度後期教育学部授業中間アンケートの実施結果調査報告について報告いたします。

1. 第 2 回 F D 研修会 講師：体育学科 小山 宏之先生

「京都教育大学地域スポーツクラブをフィールドとしての学生の学び」

学生の学びの場となっている京都教育大学地域スポーツクラブ (KY02 クラブ) は、平成 20 年度に活動を始めた総合型地域スポーツクラブで、学生が中心となりスポーツ教室やスポーツ大会等を企画・運営していくという特徴があります。KY02 クラブは正式には学外団体ですが、事務局を大学内に設置させて頂き、教育支援センター実地教育部門の「体育・スポーツ指導力養成プログラム」、またプログラムの一部であり、教育学部の前期科目「スポーツクラブ指導入門」において協力体制をとり、運動を介した子どもへの指導実習の場となっています。

KY02 クラブの会員数は、小学生 320 名、成人 80 名 (平成 27 年度) の非常に大規模なクラブであり、学生スタッフは 113 名と、多くの学生が関わっています。主な活動内容は、小学生スポーツ教室 (陸上、バスケットボール、サッカー、体操)、成人ランニング教室、短期イベント (藤森駅伝兼京都教育大学学内駅伝大会) の運営であり、これらの活動を学生が中心に行っています。なお、平成 28 年度には、生涯スポーツ優良団体として、スポーツ庁より表彰を受けました。

KY02 クラブの活動は、小学生スポーツ教室として、陸上教室は日曜日の午前中に年間 18 回、バスケットボール教室は水曜日の夕方に 7 回×2 クールで年間 14 回、体操教室は水曜日の夕方に 6 回×3 クールで年間 18 回、サッカー教室は木曜日の夕方に 7 回×3 クールで年間 21 回行っています。また、成人ランニング教室は土曜日の午後に 6 回×3 クールで年間 18 回行っています。さらに短期イベントとしては、藤森駅伝大会を毎年 11 月 3 日に行い、平成 28 年度は小学生 143 チーム、中学生 6 チーム、一般 10 チームが参加しました。

スポーツ教室の特徴として、以下の点が挙げられます。①活動内容の決定、教室時の運営および指導を学生が主導で実施する。②幅広い学年、様々な地域から集まるなど、多様な子どもの集団であり、障がいがある児童も受け入れている。③教室の目的が種目の競技力向上ではなく、社会性、コミュニケーション能力の獲得なども意識している。④教室は年間に渡って長期間で行われる。⑤児童に加え、保護者とのコミュニケーションを教室外でも実施している。⑥各教室では、アドバイザーとして現職または退職教員、客員教授 (体育・スポーツ指導力養成プログラム担当、アドバイザーと兼任の教室もある) が指導をしている。

上記の特徴がある教室での活動が、アクティブな学びの場として機能している理由について、以下のような点が考えられます。

✓ 教室は予期せぬことが起きる場であり、毎回変化する場であること

子どもたちは予想できない反応、変化、成長をします。そのため、新たな課題、新たな発見の場が次々と現れるため、常に学生たちはその対応をしていきます。

✓ 経験のある学生と新しい学生が共存すること

様々なことについて質問する、教えあう、導きあうなど、学生同士が自然と経験や学びを共有しています。

✓ 何度でも失敗できる環境であること

教育実習や実際の教育現場では、失敗はできないという気持ちが働くと思います。しかし、ここでは他の学生や経験豊富な客員教授、アドバイザーのサポートがあるため、失敗の経験ができる場となっています。

✓ 学生の意欲を高めてくれるサポーター（子ども）が存在すること

学生スタッフは、実際のところ常に意欲が高い状態で教室に望めるとは限りません。しかし、活動の場に出ると元気な子どもたちが迎えてくれて、学生の気持ちを高めてくれています。

✓ 計画、実践、振り返りの場と、筋道を示すアドバイザー、客員教授が常に存在すること

その場で考えた指導、学生だけの狭い視野で考えた指導では学びは少なくなります。そこで、教室前の計画作り⇒実践⇒振り返り⇒次の計画作り…のサイクルを実施しながら、客員教授やアドバイザーが学生に対して適宜アドバイスを行っています。このサイクルができていることが学びにつながっています。

✓ 感動体験、心に強く残る体験が存在すること

ここまで示した教室での活動により、客員教授は座学では学ぶことのできない人間力、教師力、常識力の高まりを感じており、具体的に高まっている能力の例として、以下の点を示して頂きました。

- ✓ 「叱る」勇氣、子どもに対する統率力
- ✓ 危機管理能力
- ✓ 保護者への対応
- ✓ 師範力
- ✓ 教員志望意欲
- ✓ 準備や後片付けを含めた施設管理能力
- ✓ 子どもとのコミュニケーション能力
- ✓ 教員として学ぶ姿勢
- ✓ 気配りや気づきなどの感性
- ✓ 障がいのある子どもへの対応



実際に活動に参加した学生も自分の変化を感じており、客員教授より具体的な視点で自身の学びを語ってくれました。その例として、スタッフを4年間経験した学生が感じた学びを紹介します。また、ここでの経験と学びは、教育実習での子どもとの関わりに非常に役立ったようです。

- ✓ 練習内容の説明の仕方（立ち位置、話し方）
- ✓ 子ども的人数や能力、気候を考慮したメニュー作り
- ✓ 児童が飽きないための時間の使い方
- ✓ 運動中の声掛けの仕方、タイミング
- ✓ 相談や意見交換することの大切さ
- ✓ 上回生から下回生への引き継ぎの重要性
- ✓ グループ運営のためのルール作りの重要性とその仕方
- ✓ 保護者の方との意思疎通



KY02 クラブを活用した実習（インターンシップ）は、すでに述べたように、教育支援センター実地教育部門における体育・スポーツ指導力養成プログラムで行っています。このプログラムは、平成23年度から行われており、KY02 クラブの学生スタッフはほぼ体育会所属の学生であるのに対し、このプログラムでは体育会非所属で、体育領域以外の学生も参加しています。平成28年度にインターンシップを行っている学生は33人で（教育3、発障3、数学2、理科3、技術1、音楽4、美術2、家庭1、体育13、単位は人）、数多くの専攻の学生が揃いました。これらの学生は活動での学びによって、体育・スポーツの指導力の向上はもちろんですが、それ以外に教員としての資質・能力の向上が促されていると考えています。体育の指導に関して言えば、小学校教員は体育を含めた全科目を指導するため、体育の授業に不安を抱いている学生も多いです。小学校教員の養成を強く考えている大学としても、この取り組みは重要だと思います。

当日の発表では、学生がインターンシップで提出しているレポートをいくつか紹介しました。レポートは、毎回客員教授がコメントを書き入れて返却していますが、そのやりとりの中で、学生が感じている多くの気づきや学び、そして悩みや不安も読み取れます。インターンシップは2段階あり、Ⅰでは5回、Ⅱでは10回（平成29年度より7回）実施しますが、学生の学びが段階的に進むように、レポートで記載すべき内容は毎回同じでなく徐々に発展的にするという工夫もされています。当日に配布した資料をごらんになりたい先生は、是非小山までお声かけ下さい。

【講演後の質問】

質問：成人クラブ参加者の、地域的な分布はそのようになっていますか。

回答：伏見区、宇治、木津川、山科などから来られています。

質問：学生スタッフが、体育会メンバーとして試合などに出場する場合はどうしていますか。

回答：やむを得ないので、試合のないときに教室に参加するようにしています。

2. 平成28年度大学院教育学研究科授業アンケート調査結果

大学院全体の授業の質を高めるためのFD活動の基礎資料とすること、並びに授業改善に役立てることを目的として、平成28年度の大学院教育学研究科授業アンケートを実施しました。調査対象者は、教育学研究科に在籍する大学院生141名です。以下、設問順に結果をお知らせします。

質問1. 所属専修

提出者数（所属院生数）は、学校教育専修14(42)、障害児教育専修3(10)、国語教育専修1(4)、社会科教育専修4(13)、数学教育専修7(10)、理科教育専修8(24)、音楽教育専修4(6)、美術教育専修5(11)、保健体育専修0(6)、技術教育専修2(7)、家政教育専修1(3)、英語教育専修3(5)となり、全体では52(141)で36.9%の回収率でした。昨年の回収率も36.6%であり、回収率は毎年低い傾向にあります。調査用紙には「提出先は教務・入試課です。担当教員が閲覧することはありませんので、率直に回答してください。」という文言が記載されており、提出先は教務・入試課となっています。「担当教員が閲覧することはありませんので」という部分がネックになりますが、回収率を上げるためには、学部の授業アンケートのように授業担当教員が回収する等、回収方法についての検討も必要ではないかと思えます。

質問2. 授業に関する全体的な評価

授業の全体的な評価に関する設問に対する回答は、次の通りです。「その他」「無回答」を除外すると、「期待以上」「期待通り」の合計は、質問(a)84.3%、(b)84.6%、(c)87.9%、(d)80.8%となります。ちなみに昨年度は質問(a)98.0%、(b)93.8%、(c)95.7%、(d)89.6%となっており、今年度に関しては高評価ではあるものの、満足度が昨年度よりも少し低下しているといえます。

a. 教育学研究科の授業内容は、全体として、あなたの期待に応えるものでしたか

	期待以上	期待通り	期待はずれ	その他	無回答
N (%)	7 (13.5)	36 (69.2)	8 (15.4)	1 (1.9)	0 (0)

b. 「実践特別演習」は、あなたの期待に応えるものでしたか

	期待以上	期待通り	期待はずれ	その他	無回答
N (%)	5 (9.6)	28 (53.8)	6 (11.5)	9 (17.3)	4 (7.7)

c. 「教科内容論」は、あなたの期待に応えるものでしたか

	期待以上	期待通り	期待はずれ	その他	無回答
N (%)	9 (17.3)	27 (51.9)	5 (9.6)	9 (17.3)	2 (3.8)

d. 「学校教育実践総論」は、あなたの期待に応えるものでしたか

	期待以上	期待通り	期待はずれ	その他	無回答
N (%)	9 (17.3)	33 (63.5)	10 (19.2)	0 (0)	0 (0)

質問3. 期待どおり・期待以上の科目の理由（どういう点がよかったのか）

36名が回答しており、それらを「授業の専門性に関する意見」、「授業の形態に関する意見」、「授業の有益性に関する意見」、「教員の指導に関する意見」に分類してみました。分類が難しかった回答もありましたが、授業形態と授業の有益性に関する回答が多く、その内容は「授業内容が教育実践と関連付けられており、教育実践や自身の専門に活用できること」や、「授業形態が少人数での参加型であること」等にまとめられることができます。主な意見は以下の通りです。

授業の専門性に関する意見

- ・専門的な学習が行えている。
- ・学部生の授業と違って深い部分を教えて頂けたから。
- ・教科内容論は、先生の指導により独学では学べない内容を学習することがあり、とても良かった。

授業の形態に関する意見

- ・外部の学校に研修に行ったり、外部講師の話をきいたりする機会があったこと。
- ・（「学校教育実践総論」について）色々な先生方の話が聞けたので。
- ・実践的であった。
- ・シラバスと授業内容が合っていた。それが予想より面白かった。
- ・バラエティに富んだ授業がうけられてよかった。
- ・自らに足りないものが何かを感じとることのできる授業構成となっていたため。
- ・授業の中で様々な人の考えや意見が聞けるのはおもしろい。実践的に使えそうな理論は興味深い。
- ・具体的な実践例に触れる機会が多く、教育的観点から理科を考える授業が多かったから。また、生徒指導特論では、教科以外の観点から生徒についての理解を深めることができました。
- ・生徒指導特論は理論を学ぶことから、どのように実践するかまで考えることができるようにディスカッション中心の授業であったため。
- ・学習内容のレベルアップというより、応用のような内容だったから。学校現場やその他での活用が意識されていた。
- ・分からないことがすぐに質問できるので良い。
- ・ディスカッションが多く、様々な考え方を知ることができるから。

授業の有益性に関する意見

- ・実践的かつ深いことまで学べたから。
- ・授業を受けることにより、新しい視点を考えることができた。
- ・専門的な話や、実践的な話がたくさんきけた。
- ・考えるきっかけになったり、研究につながったりしたため。
- ・特に教科内容論について、今まで持っていなかった考え方や技能を習得することができた。また実践総論は、生徒に対するコミュニケーションの方法がわかり、とてもためになった。
- ・学校現場でのエピソードを紹介しながら何が大切かを考える授業があり非常にためになった。

教員の指導に関する意見

- ・わかりやすく、先生方も熱心にして下さっていました。
- ・指定の教科書は適当であったと思う。
- ・理論的かつ実践的な指導、指摘が受けられる。
- ・私が受講する教科内容論は全て、学生の学習状況を考慮した上で、進められていると考えます。
- ・実践総論Ⅲの授業では、学生の反応を受け止めながら授業が行われていると思います。

質問4. 授業内容が期待にそぐわない場合の理由（どういう点が期待通りではなかったのか）

21名から回答がありました。「教員の指導に関する意見」が大多数であり、その内容は「授業名やシラバスと内容が異なっている」、「内容が教職に役立つとは思えない」、「課題の出し方や学生対応に問題がある」等にまとめることができると思います。その他のカテゴリーで気になった意見としては、「授業で得られるものがなにもない」、「授業の課題が明確ではない」等が挙げられます。

質問5. 授業の内容・運営に関する評価

授業の内容や運営の評価に関する設問に対する回答は次の通りです。「その他」「無回答」を除外すると、「ほとんどすべて」「約8割」の合計は質問（a）69.4%、（b）72.0%、（c）76.0%、（d）52.0%、（e）67.3%でした。ちなみに昨年度の結果は、（a）88.0%、（b）72.5%、（c）84.6%、（d）59.6%でした。質問（e）は今年度から新たに加わった質問項目です。授業の判り易さ（b）については昨年と同等の評価レベルですが、他の項目については肯定的な回答の割合が低くなっていました。

a. 何割くらいの授業が体系的で良くまとまっていたと思いますか

	ほとんどすべて	約8割	約半分	約2割	ほとんどなかった	その他	無回答
N (%)	6 (11.5)	28 (53.8)	12 (23.1)	1 (1.9)	2 (3.8)	3 (5.8)	0 (0)

b. 何割くらいの授業が分かりやすいと感じましたか

	ほとんどすべて	約8割	約半分	約2割	ほとんどなかった	その他	無回答
N (%)	9 (17.3)	27 (51.9)	11 (21.2)	2 (3.8)	1 (1.9)	2 (3.8)	0 (0)

c. 何割くらいの授業で、担当教員が受講生の理解や反応を受け止めながら授業を進めていたと思いますか

	ほとんどすべて	約8割	約半分	約2割	ほとんどなかった	その他	無回答
N (%)	17 (32.7)	21 (40.4)	8 (15.4)	2 (3.8)	2 (3.8)	2 (3.8)	0 (0)

d. 何割くらいの授業においてシラバスが参考になりましたか

	ほとんどすべて	約8割	約半分	約2割	ほとんどなかった	その他	無回答
N (%)	7 (13.5)	19 (36.5)	17 (32.7)	4 (7.7)	3 (5.8)	2 (3.8)	0 (0)

e. 何割くらいの授業が教員となるうえで（教員にとって）役立つと感じましたか

	ほとんどすべて	約8割	約半分	約2割	ほとんどなかった	その他	無回答
N (%)	14 (26.9)	19 (36.5)	9 (17.3)	7 (13.5)	0 (0)	2 (3.8)	1 (1.9)

質問6. 現職教員とストレートマスターとの合同授業で感じたこと（配慮して欲しいこと）があれば、記入してください。

29名が回答していました。主な意見は以下の通りです。授業に対する肯定的な意見としては、「現場からの意見に触れることができる」ことや、「視野が広まる」等のメリットが挙げられていました。他方、要望や不満に関する意見としては、さらなる交流を求める声や授業運営における配慮などについての意見が挙げられていました。

肯定的な意見

- ・現職教員の方がいると、学校現場の事例を提供して下さるので良いと思う。
- ・新しい知識の交流が出来て、有意義だと感じた。
- ・互いに刺激があって良い。
- ・課題について、相互の意見を交流することにより、おたがいに、新しい見方ができる。
- ・互いの専門性に関する話し合いができた。

- ・現職の方の考えは、やはり経験もあるので、聞いていて、おもしろい。周りと違う視点であったりする。授業の先生がそのことを、配慮しつつ貴重な意見として取り上げたりすると議論が深まったり、自分の中に新しい視点が生まれたりする。

要望や不満に関する意見

- ・やはり、持っている知識量がちがうのでストレートマスターとしてはたいくつなことが多い。
- ・ストレートと現職との交流（自分の専攻以外で）がもっと欲しかった
- ・グループワークでのグループの割り振りを均等にしてもらえるとありがたいです。
- ・「採用試験でだから」と強調して、同じ話ばかり繰り返されても無駄かなと思いました。（現職はもちろん、採用試験を（既に合格済みとかで）受けない人の方が、院生では多いのではないのでしょうか？）
- ・大学生の講義と同じように、20代の学生のみを意識しているような講義はやめるべき。
- ・ストレートマスターと現職教員でテスト内容が分けられていたが、受講内容は同じなので分けなくても良いと思った。
- ・グループが作られる時に時間を合わせて会うことができない。
- ・現職教員の方に経験を聞く授業は良いと思うが、その際の教授がイマイチである場合がほとんどである。
- ・現職教員の方がもう少し伸びのびと受講できるような雰囲気の方が、ストレートマスターとしても受けやすい。
- ・教員がテストやレポートで差をつけることはやめるべき。同じ学生として学べる環境作りにはげんでほしい。
- ・関わりを持てるようにして頂きたい。ストレートはストレート同士、現職は現職同士で関わりを持とうとする。
- ・現職の先生の体験談をもっと聞きたい。

質問7. 各自の「課題研究」（修士論文の執筆）に関して困っていることがあれば記入してください。

16名が回答していました。主な意見を「設備面」、「研究に関すること」、「自身の能力や都合による不安」に分類すると、以下のようになりました。「設備面」では図書不足、大学の入構制限に関する事等が挙げられていました。「研究に関すること」では「教授からの指導や助言がない」等、指導教員への早急なフィードバックが必要と考えられる回答もありました。

設備面

- ・研究に関する書籍が少なく、参考となる資料が少ない。
- ・参考にしたい図書が、先生方の研究室にあるので、借りにくい。
- ・研究を進めていく上で夜間にも実験（長時間測定等）も行いたいですが、少人数の研究室のため、夜間延長希望をできないことが多いです。夜間延長の仕組みの改善をしていただくとありがたいです。
- ・学内の無線LANの調子が悪いのか、インターネットで調べものが出来ない時がある。

研究に関すること

- ・自分の研究テーマと専門が重なる先生がおらず、助言が得られないことがある。
- ・指導教員が教育にあまり関心がないようで教育について研究室で学べることがほとんどない。
- ・教授からの指導がなく、困っています。変更したい。

自身の能力や都合による不安

- ・論文の書き方についての授業がほしいです。
- ・統計についてよく分からないのですが、授業を受ける時間が合わず取れないので、統計の授業を増やしてほしいです。
- ・課題研究と関連性のない必修科目に割く時間が多く、取り組む時間が少ない。

質問8. 「その他」の自由記述

11名が回答していました。主な内容は以下の通りです。その中には「人材の入れ換えを検討してください」等、教員に対する厳しい意見もありました。

大学院教育に対する考え、意見

- ・専門科目でも、内容が簡単な授業が多い気がするので、もう少し本では得られない知識を学びたい。
- ・院生室でwi-fiの電波が弱かったり、教室の機械が古くて、なかなか授業が始まらなかったりするので、機器類が新調されるとよいと思います。
- ・学部生の時には授業の都合などで聞けなかった講演会などに参加できることがうれしい。「学部生から院生に相談したい」などの需要はあるかも。交流の場を設けたりしてみてもおもしろいのでは…。

教員に対する指摘

- ・院生で、望んで進学している学生たちに出欠で評価をするのは、少し違和感があります。
- ・教育大なので、各校種(小中高)の教科内容を知らない又は考えてない、前提の講義はしないしてほしい。
- ・シラバス通りの授業がされていないことの方が多い。
- ・教員の中には「教育」を教えてくれない教授が多い。各教員の教育体制を自由にすると意味のない授業になってしまう。
- ・教員の授業実態を把握してほしい。人材の入れ換えを検討してください。

以上の調査結果を、今後の授業改善に役立てていただけたら幸いです。

3. 平成28年度後期教育学部授業中間アンケートの実施結果調査報告

『平成28年度後期 教育学部授業中間アンケート』の実施結果調査の集計結果について、自由記述を中心にご報告いたします。

問1. 独自作成のものも含め授業中間アンケートを実施した

はい 39 いいえ 27 無回答 0

今回は66通のご回答をいただきました。FD活動へのご理解とご協力に感謝申し上げます。

問2. 授業中間アンケートをしなかった主な理由についてお聞かせ下さい。(複数回答あり)

【時間不足のため】(8件)

- ・介護体験などで出席者が少ない時期があり、授業時間にゆとりがなかった。
- ・授業内容に余裕がなかったため。
- ・実施する時間をとれませんでした。
- ・毎回の小レポートを反映して授業を行っているから。加えて、特に当該授業は時間的な制約が小さくないため、アンケートに割くほどの余裕がない。
- ・毎時間、学生たちに授業の感想や意見を書かせているため。また、アンケートをとる時間的余裕が少ない。
- ・時間的な余裕がありませんでした。
- ・十分な時間がなく、今年度は行いませんでした。

- ・前期アンケート結果を参考にして改善をはかったことと、授業の中で学生の反応をみながら意見をきいているので改めてアンケートの形にしなかった。時間もとれなかった。

【毎回または定期的実施しているため】（7件）

- ・毎回の小レポートを反映して授業を行っているから。加えて、特に当該授業は時間的な制約が小さくないため、アンケートに割くほどの余裕がない。（再掲）
- ・毎回、授業の感想・意見・質問等を全員に記述させており、アンケートの必要がないため。
- ・毎時間、学生たちに授業の感想や意見を書かせているため。また、アンケートをとる時間的余裕が少ない。（再掲）
- ・毎回の講義終了前に、ミニレポート用紙へ、講義内容に対する質問や疑問、要望などを記入することを学生へ伝達している。そのことによる学生からの質問、疑問、要望に応じているので。
- ・普段から reflection sheet を書かせているから。
- ・毎授業ごとにミニレポートを提出させている。その中に授業内容にかかわること、授業方法にかかわること等、学生の声を書いてもらい、授業の見直しと改善を図っている。
- ・授業レポートを定期的書いてもらっているので、そこで確認できる。

【忘失、確認不足のため】（4件）

- ・実施する時期を逸したため。
- ・すみません。きちんと見ておらず過ぎてしまいました。
- ・アンケートを実施する時期をのがしてしまった。
- ・申し訳ない。忘れておりました。

【少人数のため】（3件）

- ・人が少ない。
- ・履修者が少人数（2名・4名）だったため。
- ・受講者が少人数だったので。

【その他】（6件）

- ・時間をとるのが、授業進行の途切れになる。近年、筆記でのアンケートは減ってきていて、むしろ校外でのスマホ入力に移行しつつあると思う。
- ・アンケートばかりとって学生も困惑するだろうから。
- ・アンケートの結果、途中で授業の方針、やり方を変えれば、むしろ学生の授業者に対する信頼を損なうかもしれないから。
- ・メリットを感じないため。
- ・前期アンケート結果を参考にして改善をはかったことと、授業の中で学生の反応をみながら意見をきいているので改めてアンケートの形にしなかった。時間もとれなかった。（再掲）
- ・前期のアンケートで学習状況がつかめたので。

「時間がない」というご意見が多かったように思います。時間外学習のレポートの設問で学生の状況を把握しているというご意見もありました。

問3 使用した様式について

【独自の様式】

- ・授業のレポートと感想の自由記述方式。

問4 中間アンケートを実施することについて

【独自の様式】

- ・私の授業形態では、長年授業レポートで実施しているので必要を感じない。

問5 授業中間アンケートの結果を受けて、授業内容・方法を変えた点があれば具体的にお聞かせ下さい。

【実施・FD委員会様式使用】

- ・画像を多く用いるように変更しました。
- ・時間配分
- ・大半がこのままで良いという意見であったので、大きく変更する予定はありませんが、授業の様子などを見たいという要望もあったため、研究授業のビデオなどを視聴する機会も設定したいと思います。
- ・授業の進むスピード具合、教室の温度調節に大変役立ちました。早々に室温を調節いたしました。
- ・配布資料の書式変更
- ・指摘されたものの中で実施可能なものについては取り上げている。
- ・ドングリを食べさせた事が不評だったので方針を変えた。
- ・変えてはいないが（結果を見て、その必要なしと判断）、こちらの意図を伝えるため、口頭でフィードバックした。
- ・配布資料についての説明
- ・記入欄の改善（より広く、大きく）
- ・「よい」と言われた取り組みについては後半の授業でも引きつづき行っていくことにした。
- ・あまり触れていなかった部分を教えてほしいという要望があり、説明に加えた。
- ・特別に変更する事はないが、自分自身が授業をすすめるうえで参考にしようと毎回思われる。
- ・資料の配布方法、Web上で公開した。
- ・資料の見直しをおこなった。時間内の授業構成を再検討した。
- ・たすき掛けで担当者が入れ替わる直前での実施だったため、後半を担当するクラスでの授業のすすめ方で役に立っている。

【実施・独自の様式使用】

- ・アクティブラーニングなので、その都度マイナーチェンジをしており、書ききれません。
- ・専門用語の説明の回数を増やした。
- ・照明を調整し、パワポが見えやすくした。
- ・資料をより詳しく改善した。

【未実施】

- ・毎時間、学生の対応に活用しています。
- ・疑問点や意見の取り上げ。自宅で学習する機会の設定（小テスト、レポートなど）

授業内で実施していただいたことにより、具体的なアイデアの他にも、直接先生に相談するほどではないレベルの小さな要望も拾うことができたようです。

問6 学生へのフィードバックの方法について

【その他】

- ・直接の声かけ
- ・授業方法のマイナーチェンジ
- ・毎回pptで教材提示するので、その1枚目をフィードバックに充当している。

問7 FD委員会様式の「授業中間アンケート」の設問について

【改善の余地あり】

- ・評価が2分される傾向にあり、改善するとき参考にしにくい項目がある。評価結果を取り入れたいと思うので学生の生の声をきけるものが望ましいが…。時間をかけるしか、具体的な提案はできず。
- ・アンケートがあることに気付かなかった。(メールボックスに入れてもらえればした) やりたい人はどうぞ的なFDのやる気のなさが伺える。
- ・授業アンケートをやることの、特に無記名でやることの意義がわかりません！！私は、一応授業研究を研究テーマの一つにしていますが…。
- ・期末アンケートにある「予習時間」を尋ねたほうがよいと思いました。

【未回答】

- ・ある大学では試験時に、学生の端末orPCから直接入力させていますが…。

FD委員会では、定期的に中間授業アンケート実施を依頼しております。

アンケートの様式や設問はあくまでも一例ですので、積極的に手を加えていただきますようお願い申し上げます。(編集しやすいような媒体での配布も検討させていただきます。)

また、学生の手間を考慮してアンケートを躊躇されている方は、「FD委員会から依頼されたので…」とおっしゃって下さい。遠慮はいりません。それがFDとなれば本望です。

様々なご意見をいただきました。今後のFD活動の参考とさせていただきます。

皆さまと共に進めるFD活動でありたいと思っております。

今後ともご理解ご協力のほど、よろしく願いいたします。

問い合わせなどがありましたら、下記の委員までお願いいたします。

FD委員会委員：太田(委員長)、谷口(慶)(副委員長)、安江、藪根、山口
(事務担当：富家、山本)